

キリスト者共同体東京集会  
2018年9月からの催しご案内



9月2日(日) 13:00~15:00

午後の音楽のひと時

## 意識を持った音楽や歌との関わり

吉田和彦(ピアニスト、キリスト者共同体儀式音楽部門所属)

今年もミュンヘン在住の音楽家、吉田和彦さんを迎えます。吉田さんはキリスト者共同体の儀式音楽作曲家グループに所属し、儀式音楽の研鑽や作曲にあたっているほか、ピアノの演奏活動やシュタイナー学校の音楽教育などでも活躍されております。吉田さんとともに、午後のひと時を「音楽」を本当に聴くこととはどういうことかを学びたいと思います。単なる頭だけの講座ではなく、聖歌を歌ったりしながら生き生きとした体験がもてることを楽しみにしております。

### 吉田さんからのメッセージ

心の静けさ(静穏)、目で見える光(蠟燭)、そして耳で聴く音(鉦鈴)が人間聖化式が執り行われる空間を準備する3つの要素です。ひょっとしたら聞き流してしまっているかもしれないこの鉦鈴の響きにも大切な意味があります。仏教の寺院にある大きな鐘が覆いもなく戸外に吊るされているのに比して、キリスト教会の鐘は塔つまり屋内に吊るされています。その鐘が人間聖化式では祈りの空間の中で、しかも人間自らの手によって握られ鳴らされるのです。それは自我の位置付けでもあります。そうして準備された空間に言葉と音が鳴り響くことが可能となるのです。

人間聖化式で歌われる聖歌は『私』が歌う聖歌ではなく『私たち』が歌う聖歌なのです。しかし『私』が歌わなければ『私たち』も歌うことは出来ません。

歌うことが出来るのは人間のみです。ミミズや蛇などの全身が『尻尾』であるとも言える動物に始まってトカゲなどの爬虫類は歌うことも愚か声を出すことすら出来ません。オタマジャクシは歌えませんが蛙になれば音を発することは可能になります。その為に尻尾が退化するのです。人の心の中に宿る尻尾を持った竜を払い除ける為にも歌は在るといえます。

このように歌や音楽には様々な浄化作用があります。「人がもっと歌うようになれば、正しく歌うようになれば世の中から悪事が減る」とルドルフ・シュタイナーも言っています。

そうした背景を踏まえて、9月2日(日曜日)の午後、聖歌の練習などを中心として、皆様と和やかなひと時を過ごせれば幸いです。

また今年8月にはドイツで国際儀式音楽講習会も開催され日本から神田純子さんも参加されますので、その報告などもさせて頂く所存です。

吉田和彦(音楽家・ミュンヘン在住)

以上の催しは久が原集会所で行われます。入場無料、会場にて自由なご寄付をお願いします。

キリスト者共同体東京集会 久が原集会所 〒146-0084 東京都大田区南久が原 2-16-19 1F  
Tel/Fax : 03-3757-4917 tokyo@irisutoshakyodotai.org <http://www.kirisutoshakyodotai.org>

10月7日（日）13:00～15:00

講演

# “魂の戦いの中にある私を強めてください・・・”

～アーノルド・ベックリンの生涯と作品

講師：クラウディア・シュトックマン（フランス・コルマール集会司祭）



講師からのメッセージ

私たちの魂と日常生活には、高い理想と自分自身の魂の不完全さの緊張があり、それはひとつの挑戦です。

画家、アーノルド・ベックリンはその好例です。この緊張を理解し、耐え、そして少しずつ変容させていくことは、現代人にとってのキリスト的冒険なのです。

コルマール集会のシュトックマン司祭を迎えての講演会を開催いたします。今回は、シュトックマン司祭と同郷のスイス、バーゼルに生まれ、19世紀後半に活躍した画家ベックリンについての講演です。日本でも愛好する人が多いベックリンの絵画を通して、現代の大きな問題である魂の闇と光について考えることができる機会となるでしょう。またいつものようにシュトックマン司祭との暖かい交流のひと時ともなれば幸いです。皆様のお越しをお待ちしております。講演には日本語通訳がつきます。

---

以上の催しは久が原集会所で行われます。入場無料、会場にて自由なご寄付をお願いします。

キリスト者共同体東京集会 久が原集会所 〒146-0084 東京都大田区南久が原 2-16-19 1F  
Tel/Fax : 03-3757-4917 tokyo@irisutoshakyodotai.org <http://www.kirisutoshakyodotai.org>